

令和4年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

教育力・組織力・企画力を構成要素とする「学校力」のさらなる向上を図ることにより、生徒一人ひとりの個性・能力を最大限に伸ばすとともに、自ら目標を定め、その実現に向けて全力で努力する生徒を育てる。

1. 学習指導・進路保障体制の一層の充実により、「生徒を伸ばし、伸びゆく学校」をめざす
2. 主体的・自律的な努力を怠らず、自己の向上に努める生徒を育成する、「活気がみなぎり、かつ規律ある学校」をめざす
3. 自己表現力、コミュニケーション能力を育て、国際社会で活躍する人材を育成する、「グローバルに考え、行動する学校」をめざす

2 中期的目標

【未来をひらこう颯爽と】 → 今年60周年を迎える本校は、これまでのよき伝統を継承して、さらなる発展をめざし、生徒が未来に向けて「颯爽」と（校歌の一節「颯爽たり 枚方」に因む）飛躍、世界規模で活躍していくことを願って、中期的目標の冒頭にこの言葉を掲げる。

1 「生徒を伸ばし、伸びゆく学校」の実現に向けて

(1) 生徒一人ひとりが自己実現を果たすための「確かな学力」を身に付けるよう、全教員が「授業改善」に取り組む。

- ・新学習指導要領における各教科の「新教科スタンダード」を作成するとともに「アフターコロナ」を見据えた「新枚高マップ」の令和6年度完成をめざす。
- ・各教科において、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざし「観点別学習状況の評価」を進めるとともに、これまでの教育実践にICTを効果的に取り入れ、一斉学習、個別学習及び協働学習を組み合わせること等により、学びの深化を図る。またコロナ感染症等による非常時にはICTを活用し、学びを保障する。
- ・国際文化科を設置する学校として全校的に「総合的な探究の時間」の充実を図り、課題発見・解決する資質・能力を育むための学びを構築していく。
- ・ICT化の推進に向け、校内体制の整備を一層進め、1人1台端末を積極的に活用した授業実践のための教員研修を実施する。

これらの取り組み等により、令和6年度以降、学校教育自己診断（以下「自己診断」という。）における「教え方に工夫している先生が多い」の肯定率85%以上（R1 79% R2 86% R3 85.1%）とともに、授業アンケートにおける満足度3.25以上を維持する。（R1 3.24 R2 3.25 R3 3.37）

（※「満足度」：授業アンケート「問8 授業内容に興味・関心を持つことができた」「問9 知識・技能が身に付いた」の全教員の評価平均（4点満点））

(2) 夢と志を持つ生徒の育成を図るとともに進路保障体制をさらに充実させる。

- ・最後まで目標に向けてチャレンジする生徒を育てることにより、令和6年度には現役生の国公立大学合格者10人以上をめざす。（R1 4人 R2 6人 R3 4人）
- ・生徒支援体制を一層充実させ、自己診断における「悩みや相談に応じてくれる先生がいる」の肯定率を令和6年度85%以上に。（R1 78% R2 84% R3 82%）
- ・「総合的な探究の時間」においてSDGs課題研究・キャリア教育・人権教育・国際理解教育等を体系的に実施し、課題を発見し解決する力を育成するとともに、コミュニケーション力、プレゼンテーション力の育成に努める。令和6年度「自己診断」「総合的な探究の時間（枚方未来学）は自分の成長に役立っている」（R1 73% R2 81% R3 83%）を令和6年度85%以上に。

2 「活気がみなぎり、かつ規律ある学校」の実現に向けて

(1) 学校行事の充実、部活動の活性化を図る。

- ・学校行事での主体的な取り組みを支援し、自己診断における「文化祭・体育祭・修学旅行は、意義深いものになるよう工夫されている」の肯定率90%以上を令和6年度以降も維持する。（R1 88.5% R2 92.4% R3 94.4%）
- ・部活動加入率について、令和6年度に80%を達成するとともに、一層の増加をめざす（R1 74% R2 75% R3 71.9%）

(2) 生活規律を確立させる取り組みを充実させる。

- ・遅刻者数の年間1,000未満を維持し、さらなる減少に向けて、令和6年度に向けて指導を継続していく。（R1 882人 R2 940人 R3 861人）
- ・制服の着こなし等、身だしなみに関する指導、携帯電話やICT機器の使用に係る指導、自転車の乗車マナーを含めた交通安全指導の充実を図る。

3 「グローバルに考え、行動する学校」の実現に向けて

令和4年度「学校経営推進費」事業による「枚高で未来をひらこう ～Global Learning Hall から世界に羽ばたけ枚高生～」の計画（視聴覚教室のリノベーションによるグローバル人材の育成の推進）を実施する

(1) 将来グローバル社会で活躍できるよう英語の4技能（「聞く・話す・読む・書く」）を総合的に育成する授業づくりを推進し、教育活動の様々な場面において、「使える英語力」の伸長を図る。

- ・大学等の協力を得ながら、英語暗唱弁論大会を充実し、「外国語キャンプ」、「インターナショナルフェスティバル」「10校合同課題研究会」等に積極的に参加し、令和6年度には自己診断「自分の考えをまとめたり発表したりする機会がある」の肯定率95%以上に（R3 91.2%）とする。
- ・英語検定、英語学力調査等の受検を推奨するとともに、準備講習等を計画的に実施し、令和6年度の卒業時には英検2級合格80%以上、準2級合格100%とする。

(2) 国際文化科を設置する学校として、全校的に国際交流・異文化理解教育のさらなる活性化、SDGsに関する課題研究等の充実を図る。

- ・国際文化科において、3年間を通じたSDGs課題研究及び国際交流・異文化理解教育の取り組みを充実させるとともに、コミュニケーション能力やプレゼンテーション力を育成し、世界規模で考え、自ら考え、調べ、行動、発信できる力を養う。さらに取り組みとその成果を国際教養科、普通科とも共有し、令和6年度には自己診断「国際交流活動が活発」の肯定率を95%以上（R3 92.1%）とする。
- ・令和4年新学習指導要領における教育内容について普通科と国際文化科・国際教養科の特色及び学校全体としての連携を図りながら、更なる充実を図る。
- ・ユネスコ・スクールとしての取り組みについて、生徒会執行部や複数のクラブが主体的に関わっていける活動となるよう推進していく。

4 教員組織体制の強化と教育環境のさらなる整備

(1) 広報活動の強化。

- ・学校外諸機関との連携や渉外及び校内調整、また本校の魅力やアドミッションポリシー等の情報を積極的に発信するため、中学校訪問・学校説明会等のさらなる改善や学校HP等様々な媒体を活用した情報提供を組織的に行う。

(2) 教育環境の整備と業務の効率化の促進を図る。

- ・ICT機器の活用を推進するとともに、オンライン等による授業や情報発信・情報収集を積極的に行う。
- ・効率的な学校運営に向けて、ペーパーレスの一層の推進、ICTの活用による各会議・研修の効率化をさらに進め、業務縮減を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和4年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【生徒アンケート】 30項目中7項目で肯定率が上昇、21項目で減少し、全般に肯定率は高いものの数値としては下がった。「基本的生活の確立に力を入れている92%」「進路情報を知らせてくれる91%」「人権について学ぶ機会がある97%」「授業では評価基準やポイントが示されている90%」など高い肯定率を維持している項目も多い。一方で「枚方高校はボランティア活動が活発である69%」「生活指導は納得できる72%」などは、肯定率が低く今後の課題といえる。</p> <p>【保護者アンケート】 30項目中27項目で肯定率が上昇、3項目で減少となり、全般に肯定率が高い。</p>	<p>第1回 学校運営協議会 令和4年7月21日（木）13時30分～15時00分</p> <p>○視聴覚教室のグローバルラーニングホールへの改修はよい取組みだ。構想やWi-Fi等の環境は。 →現状、机と椅子が固定されており、収容人数120名と限定的。机椅子を可動式とし、大人数での同時活動を可能にし、プレゼンテーション・ポスターセッション等の会場としたい。 Wi-Fiやプロジェクターはすでに完備されており、海外の学校とのオンライン交流等で活用している。</p>

府立枚方高等学校

<p>特に肯定率が高い項目は「評価を適切公平に行っている 92%」「人権を尊重した教育の実施 92%」「雰囲気がよく生徒が生き生きしている」など挙げられる。また前年度比で肯定率が大きく上昇した項目は「学習支援クラウドサービスによる連絡は役立っている 78%(12ポイント上昇)」「授業参観の機会を設けている 82%(30ポイント上昇)」「保護者や地域の人達との話す機会 76%(12ポイント上昇)」であり、コロナ禍の影響を受けつつも開かれた学校作りが一定認められたものと受け取れる。</p> <p>【教職員アンケート】</p> <p>52項目のうち11項目で肯定率が上昇、41項目で減少となり、昨年の高い肯定率に比して減少の傾向が見られた。「教材の工夫精選を行っている 97.6%」「授業の指導法の工夫改善を行っている 97.6%」「ICTが授業で活用されている 97.5%」などの項目は高い肯定率が維持され、教科指導に励む教員の姿勢が反映されているといえる。一方、「校則が生徒の実態等から適切であるかについて話合う機会がある 42.9%」「学校として読書指導に取り組んでいる 40.5%」「ボランティア活動が積極的に行われている 42.9%」などの項目は肯定率が低く、教科外活動の取組みについての検討は今後の課題と考えられる。</p>	<p>第2回 学校運営協議会 令和4年11月21日(月) 授業見学 13時15分～14時00分 協議会 14時5分～15時00分 ○スクールミッションと関連し、多様性理解は重要だが、どのように盛り込んだのか。またコミュニケーションの育成はどのように行っているのか。 →多様性については、国際交流や異文化理解教育を通じて学ぶ機会として示している。コミュニケーションの育成は、まずは場面を多く設けるように努めており、発表方法については「枚方未来学」や英語をはじめとする授業で、発表の手法やプレゼンテーションの方法を指導している。</p> <p>第3回 学校運営協議会 令和5年2月1日(水)13時30分～15時00分 ○校則について、必ずしも変える必要があるという意見ではないが、教員間での話し合いの機会を設けることは必要だと考える。 ○学校教育自己診断において「ボランティア活動が活発である」の肯定率が低いが、新型コロナウイルス感染症による活動の制約が要因であろう。感染が落ち着けば以前のように諸活動に是非取り組んでいただきたい。 ○授業アンケートや学校教育自己診断の評価が全体に高いことは望ましく、今後も充実した教育活動を継続されたい。</p>
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R3年度値]	自己評価
1 「生徒を伸ばし、伸びゆく学校」の実現	(1) 全教員の授業力向上	<p>ア「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした授業を行い、授業アンケートの結果について、全教員が真摯に受け止め、更なる改善に向けて取り組む。</p> <p>イ教科内だけでなく教科を越えた教員相互授業の見学や他校等の先進的な実践を視察する機会を活用し、ICTの活用やグループ学習などの研究・研修の充実に努める</p>	<p>ア 授業アンケートにおける「満足度」の3.25以上の維持[3.37]</p> <p>イ・相互授業見学期間を2回設け研鑽の機会とする。[1回] ・教科内だけでなく教科を越えて授業見学など実施することで、自己診断「教え方に工夫をしている先生が多い」の肯定率85%以上を維持。[85.2%]</p>	<p>ア 授業アンケートにおける「満足度」の3.38。今後も向上に努める。(○)</p> <p>イ・授業見学期間を6月と11月に設け実施。(○) ・「教え方に工夫をしている先生が多い」の肯定率85%。(○)</p>
	(2) 夢と志を持った生徒の育成、進路保障体制のさらなる充実	<p>ア 家庭学習を含めた学習指導のあり方について、授業力向上PTを中心として検討・実践を進め、生徒の更なる学力向上を図る。</p> <p>イ 学習指導、進路指導の充実・改善に外部模試等を全員対象とし積極的に活用する。また、各担任の進路指導スキルの一層の向上を図るための研修等を計画的に実施する。</p> <p>ウ 「生徒支援委員会」「人権教育推進委員会」「帰国・渡日生連絡会」学年会等での情報共有を密にし、個別の課題等を抱える生徒支援体制を充実させ、SCや関係外部機関との連携を進める。いじめ、ハラスメントに関するアンケートの実施および面談を充実させる。</p> <p>エ キャリア教育・人権教育・国際理解教育の一層の充実に向け、教員自らが研鑽を積む機会として、外部講師等の活用など、これまでの実践を継承・発展させるとともに、「総合的な探究の時間」において、SDGs課題研究などを通して課題を見つけ探究し、解決し、発表・発信する能力を育成する。</p>	<p>ア「学力生活実態調査」における生徒の平均家庭学習時間を平日60分以上、休日平均90分以上に[1・2年平均平日52分、休日82分]</p> <p>イ・「学力生活実態調査」「B2ゾーン」以上の生徒割合を2年生(2回め)50%以上の維持。[53.7%] ・現役生国公立大5人以上かつ関関同立50人以上の合格をめざす[国公立4人、関関同立105人]</p> <p>ウ 自己診断「悩みや相談に応じてくれる先生がいる」の肯定率の上昇。[82.1%] 「いじめについて真剣に対応」の肯定率90%以上の維持。[92.8%] ・自己診断(保護者)「保護者の相談に適切に対応」の肯定率85%以上の維持[88.0%]</p> <p>エ 自己診断「将来の進路や生き方について学ぶ機会がある」[95.4%]、「人権について学ぶ機会がある」[97.5%]の肯定率90%以上の維持。</p>	<p>ア「学力生活実態調査」の平均家庭学習時間は平日49分、休日平均72分と課題が残った。今後、1人1台端末の活用を含め学習時間の増加を進める。(△)</p> <p>イ・「学力生活実態調査」「B2ゾーン」以上は47%であり今後学習時間の増加とともに向上するよう努める。(△) ・現役生国公立大4人、関関同立81人。(△)</p> <p>ウ「悩みや相談に応じてくれる先生」の肯定率は82.3%、「いじめについて真剣に対応」の肯定率90.9%。(○) ・「保護者の相談に適切に対応」の肯定率88.8%。(○)今後も相談体制を維持する。</p> <p>エ「将来の進路や生き方について学ぶ機会がある」95.7%、「人権について学ぶ機会がある」96.8%と肯定率90%以上を維持できた。今後も引き続き各取組みを推進する。(○)</p>
2 「活気がみなぎり、かつ規律ある学校」の実現	(1) 学校行事の充実、部活動の活性化	<p>ア 学校活動の活性化を推進し、行事の魅力化を検討する機会を設け、工夫して実施することで、生徒の自尊感情の高揚を図る。</p> <p>・「ノークラブデー」を実施し、部活動の活性化と効率化及び学習との両立をめざす。</p> <p>・文化祭・体育祭等について生徒会や関係生徒が主体的に企画・運営できるよう支援する。</p>	<p>ア 行事の魅力化を検討する機会を設け、工夫して実施することで、自己診断「学校に行くのが楽しい」の肯定率の向上を図る。[87.5%] ・自己診断「学習と部活動の両立を大切にすると雰囲気がある」の肯定率83%に向上。[[80.8%] ・自己診断「文化祭・体育祭・修学旅行は、意義深いものになるよう工夫されている」の肯定率90%以上維持[94.4%]</p>	<p>ア「学校に行くのが楽しい」肯定率は84.3%と向上はならなかった、今後も取組みの工夫改善に努める。(△)</p> <p>・「学習と部活動の両立」の肯定率は77.5%であり、メリハリのある学校生活を送れるよう支援する。(△) ・自己診断「文化祭・体育祭・修学旅行は、意義深いものになるよう工夫されている」の肯定率は88%であり、更なる工夫を検討する。(△)</p>
	(2) 生活規律を確立させる取組み	<p>ア 生活規律を重視する指導を明確化し、生徒・保護者の一層の理解を得るとともに、教員間の組織体制の充実し、規則を再確認する。</p> <p>・遅刻指導、服装指導、頭髪指導を継続する</p> <p>・交通安全指導、薬物乱用防止教育を充実させる</p> <p>・SNSの正しい理解、携帯電話の使い方指導</p>	<p>ア・年間総遅刻者数1,000人未満維持[861人] ・自己診断「指導に納得・共感」の肯定率の向上[生徒78.3%、保護者86.9%] ・自己診断「情報リテラシー」の肯定率を85%に。[82.5%]</p>	<p>ア・年間総遅刻者数594人。(○) ・自己診断「指導に納得・共感」の肯定率の向上[生徒71.2%、保護者88.2%と生徒と保護者の意識の乖離が見られる。(△) ・自己診断「情報リテラシー」の肯定率は78%とICTを活用すればするほど、課題が多くなるのが顕著となった。更なる改善に努める。(△)</p>
3 「グローバルに考え、行動する学校」の実現	(1) 英語4技能の育成とコミュニケーション能力・プレゼンテーション力の伸長	<p>ア 英語4技能の育成を進めるため、指導の工夫を行うとともに、国際文化科1・2年生に対して英検等外部検定の受験を推奨する。</p> <p>イ 英語暗唱弁論大会の充実、改修された視聴覚教室でのポスターセッション等の実施を踏まえ「外国語キャンプ」、「インターショナルフェスティバル」「10校合同課題研究発表会」等への積極的に参加を行う。</p>	<p>ア 英語外部検定受験を推奨し、英検については国際文化科全員受験を実施する。卒業時の2級合格60%以上、準2級合格80%以上[45%、74.6%]。</p> <p>イ 自己診断「自分の考えをまとめたり発表したりする機会がある」の肯定率92%以上。[91.2%]</p>	<p>ア英検は国際文化科全員が受験した。2年次の準2級合格は85%となり卒業時の目標達成が見込める。(参考:国際教養科(3年)の卒業時2級合格29%、準2級合格61%)。(○)</p> <p>イ 自己診断「自分の考えをまとめたり発表したりする機会がある」の肯定率89.3%となり目標をやや下回った。しかし内外での発表機会は増加しており、今後も大学との連携など内容の充実と発展に努める。(○)</p>

府立枚方高等学校

	(2) 国際文化科設置校としての取組みの充実・国際交流活動の更なる充実	<p>ア オンライン等を活用した海外交流の推進を図る。</p> <p>イ 異文化理解の推進に向けて、外部講師等を活用した講演やゲストティーチャーによる授業等を各学年で実施。</p> <p>ウ ボランティア活動やあいさつ運動ユネスコ・スクール等の取組みについて、生徒会と関係クラブ等が連携できるよう支援する。</p>	<p>ア・オンライン等を含めた交流を年間5回以上実施する。[4回]</p> <p>イ 自己診断「国際交流活動が活発」の肯定率93%以上 [92.1%]</p> <p>ウ 自己診断「他の学校や地域の人と交流する機会がある」の肯定率を75%に。[72.7%]</p>	<p>ア・交流は年間5回実施した。(○)</p> <p>イ「国際交流活動が活発」の肯定率90.2%となり目標を下回ったが、今年度は外部講師の講演に加え、国内語学研修を実施。次年度は海外研修を計画するなど内容の充実に取り組んでおりコロナ禍でありながら国際交流の活性化を図れた。(○)</p> <p>ウ「他の学校や地域の人と交流する機会がある」の肯定率は73%と上昇するも目標は下回った。しかし自己診断実施後の年度終盤に近隣の学校や保育所を通じたボランティア活動を積極的に行うことができ好評を得た。よって一定の目標は達成できており、以降も継続させたい。(○)</p>
4 教員組織体制強化と環境整備	(1) 広報活動の一層の充実	<p>ア 広報業務を分掌機能の中に明確に位置づけることで、学校全体において広報機能を充実させる。</p> <p>イ 学校説明会の一層の充実及び中学校等が主催する進学説明会へ積極的に参加する。</p> <p>ウ 学習支援クラウドサービスの活用等により、保護者への情報発信を充実させる。</p>	<p>ア 広報を活性化させ、広報資料を刷新し、HPでの発信の機会を増やす。</p> <p>イ 学校説明会の参加者数1,000人以上をめざす。[870人]</p> <p>ウ 自己診断保護者「枚高の学習支援クラウドサービスによる連絡は役立っている」の向上[77.9%]</p>	<p>ア 広報資料を5月に刷新し、HPはブログ含め更新回数を増加させた。(○)</p> <p>イ 学校説明会の参加者数1,200人以上となり、目標を大きく上回った。(◎)</p> <p>ウ 自己診断保護者「クラウドサービスによる連絡は役立っている」の肯定率は89.6%となり活用の促進が見られた。(◎)</p>
	(2) 教育環境のさらなる充実	<p>ア ICT機器の授業での活用を組織的に進めるため、環境の改善や充実に努める。</p> <p>イ 会議でのプロジェクター活用、校内イントラネット、教員のタブレット端末の活用等により、会議資料ペーパーレス化・効率化を一層推進。各種会議、委員会において、各教員が共通の情報の元、意見交換を行うとともに全般の効率化により時間短縮を図る。</p>	<p>ア ICT環境の改善に努め、組織的に活用し、さらなる授業改善をめざす。教員の活用率の95%以上維持(自己診断「教員のICT活用」[100%])</p> <p>イ・職員朝礼時等に府通知等をデータで送付し、服務規律を含めた情報共有の効率化を一層進めるとともに、職員会議でのペーパーレス化を一層進める。</p>	<p>ア 教員の活用率は97.5%であり、活用は定着している。(○)</p> <p>イ・府通知等をデータで送付のみならずクラウド上で日常的に活用しており、情報共有の効率化を進めることができた。職員会議のみならず、多くの会議でのペーパーレス化が進んだ。(○)</p>